



関西大学

Student's voice

プログラム参加学生の声

2年次の海外体験研修、そして3年次の海外インターンシップに参加した学生の体験談を紹介します。

台湾・中原大学(2年次)
タイ・キングモンクット大学(3年次)

海外で感じた壁は、確かな自分の糧になっています。

海外の大学での学び方を体験してみたいとグローバル人材育成プログラムに参加。2年次の海外体験研修では3週間程度、台湾の大学に赴きました。この期間で、日常会話レベルの英語と、インターネットで事前に準備した英語表現で、現地学生とコミュニケーションを図りました。

3年次にはタイの大学に研究留学。現地の研究室で、画像の機械学習を活用して「レトロ」「手書き風」など画風を変換する編集機能のプログラミングに取り組みました。1ヶ月の研究留学ともなると、2年次の研修のようにはいきません。英語の論文を読む必要にも迫られましたし、そもそも研究内容を理解するのが難しく、思うように研究が進みませんでした。言葉の壁があってもこまめなコミュニケーションをとっていれば、周りと協力してもっと研究を進められたかもしれません。悔しさが残りましたが、まさに海外留学でしか得られない貴重な経験ができました。社会に出ても役に立つ財産になったと思います。

電気電子情報工学科 4年次



台湾・中原大学
(2年次・3年次)

留学は貴重な経験。迷ったら挑戦してみましょう。

人生の中でいつかは海外経験をすべきだと考え、2年次で挑戦することに。台湾の大学で、日本、台湾、フィリピン、ベトナムの学生とともにロボット制御のプロジェクトに携わりました。他国の学生は当然のように英語を話しますが、私はおぼつかない英語で少しずつ話すのがやっと。厳しい経験でしたが、グループワークで求められる英語力を目の当たりにしたことは収穫でした。

3年次の研究留学ではAndroid用のアプリ開発に取り組みました。私が選択したプログラムでは担当教員との1対1のコミュニケーションが中心だったので、2年次の研修よりも語学力のハードルは低いと感じました。ただ、学外では中国語しか通じず、1ヶ月間生活するために夜市や屋台で食事を調達する必要があり、必死でやり取りしていました。その中で「実際に使える」言葉や表現がわかり、語学の本質的な面白さを感じることができました。

プログラムを通じて、海外への漠然としたネガティブな思いを、ささやかな自信へと昇華できたと思います。

理工学研究科 システム理工学専攻 博士課程前期課程 1年次



台湾・中原大学(2年次)
ポーランド・グダニスク工科大学(3年次)

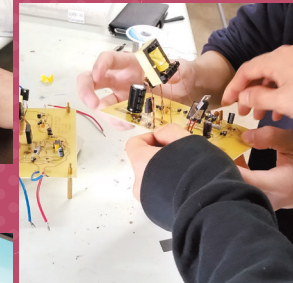
文化の違いを体感し、現地での出会いもありました。

高校生の頃から海外に興味があり、トビタテ!留学JAPANの1期生として留学した私。大学に入ってから海外へ出たいと考えていたところ、グローバル人材育成プログラムを知って迷わず参加しました。2年次の研修で行ったのは、太陽光発電における送電時の電圧降下をおさえる研究。現地の学生とは、ボディランゲージを交えた英語でコミュニケーションしました。フィールドワークでは台湾の観光地を訪問し、日本との文化的な違いも体感できました。

3年次には電気電子情報工学科の4名でポーランドへ。同じ研究室に配属され、現地の学生とともに、AIを活用したお絵かきロボットの製作に取り組みました。1ヶ月の滞在中には完成しませんでした。ポーランドの学生とSNSでやり取りをしながら製作を続け、半年後に完成。今でも連絡を取り合っており、国境を越えた絆が生まれました。

今春には電力会社の技術職に就きます。これから好奇心を大切に、留学経験から得たチャレンジ精神を生かしていきたいです。

電気電子情報工学科 4年次



関西大学 | システム理工学部 電気電子情報工学科

〒564-8680 大阪府吹田市山手町3丁目3番35号 TEL. 06-6368-1121 (大代表)

エンジニア育成 特別プログラム

グローバル社会で
活躍できる力を身に付けよう！

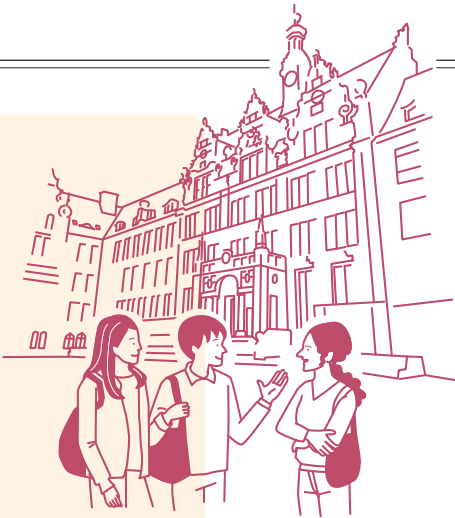
近年、多くの企業は入社時に最低でもTOEIC650点を要求するなど、国際的な視野を持った技術者が求められています。そんな中、2017年にこのプログラムが立ち上がりました。高い専門性(電気電子情報工学)と英語運用能力を身に付けて、グローバルに活躍できる人材をめざしましょう。就職機会を国内のみならず海外に広めるチャンスです。また、海外の友人を得られたり、早い段階(2年次)から研究活動の体験ができたことといったメリットもあります。

1年次から4年次まで、段階的なグローバル体験

1年 キャンパス内 留学体験

- ▶ 共通教養科目 グローバル科目群「留学準備スキルアップ科目」の履修
- ▶ KUICC(KU Intensive Communication Camp)への参加
- ▶ 学部・学科主催の国際交流シンポジウム運営への参画

キャンパス内留学ということで、共通教養科目の留学準備スキルアップ科目の履修や特任外国語講師によるKUICCへの参加を推奨しています。これらの履修を通じて今後必要となる外国語運用スキルの向上を目指します。また、国際部が主催する各種イベントを通じてグローバルな感性を涵養し、さらには学部・学科が主催する国際シンポジウムの運営(受付業務、セッションの司会進行補助、エクスカーションの引率等)を通じて国際的な取り組みへの理解を深めます。

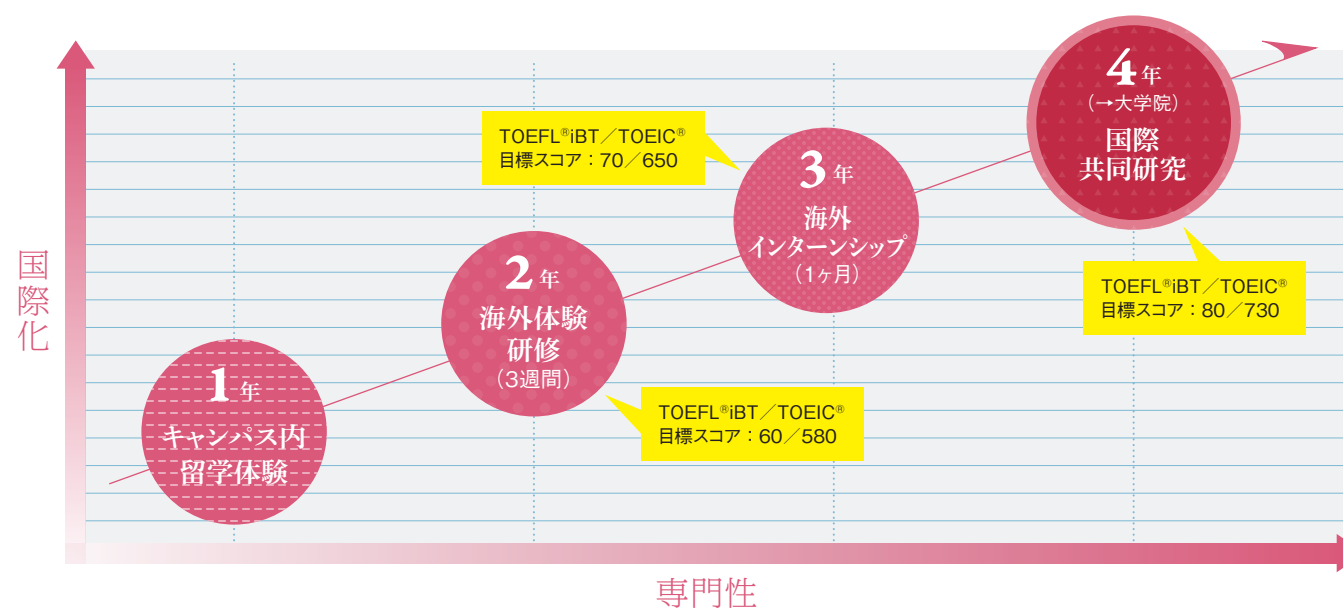


2年 海外体験研修 (3週間) および グローバルPBL

- ▶ 夏季休業期間を利用した短期滞在プログラム(選択科目2単位)
- ▶ 全編英語で実施される演習形式科目(選択科目2単位)

海外体験研修における渡航先は本学の協定校である中原大学(台湾)。中原大学が主催するサマーキャンプにおいて、現地の学生に加えて、インドネシア、フィリピンからの学生とチームを形成(1チームに日本人は1人)し、電気電子情報系のプロジェクトに取り組めます。期間中、各チームは研究室に所属し、現地教員および大学院生TAの指導の下、チームメンバーで研究プロジェクトを遂行します。また、週2回程度、英語による講義も受講し、電気電子情報工学の知識を深めます。週末にはチームメンバーを中心に海外の学生たちと文化交流も行います。

グローバルPBLにおいては本学科教員の指導の下、3~4名程度でチームを形成し、電気電子情報工学に関わる研究プロジェクトに取り組めます。毎週1コマ15週の演習を通じて、外国語により研究プロジェクトを遂行するために必要となるスキル(英語文献読解、英語文献検索、プログラミング能力、プレゼン能力など)を磨きます。



3年 海外 インターンシップ (1ヶ月)

- ▶ 夏季休業期間もしくは春季休業期間を利用した海外短期留学(選択科目2単位)

派遣先は、協定校であるグダニスク工科大学(ポーランド)、中原大学(台湾)、キングモンクット工科大学トンブリ校(タイ)などで、今後さらに増大する予定です。1大学に1~4名の少数で派遣され、派遣先の研究室に滞在して電気電子情報工学に関わる研究プロジェクトに現地教員の指導の下、現地学生の協力も得つつ個人で取り組みます。2年次の海外体験研修よりも難関な研究プロジェクトに取り組むことで、電気電子情報工学の知識をさらに深め、将来グローバルに活躍する研究者・技術者になるための素養を磨きます。



4年 (→大学院) 国際共同研究

- ▶ 海外研究室との国際共同研究テーマへの参画

3年次までのグローバル人材育成プログラム(3科目6単位)を修了し、本学の大学院に進学を希望する学生は各研究室で展開する国際共同研究テーマに参画することができます。国際共同研究においてはオンラインを通じた定期的な研究ディスカッションに加え、共同研究先研究室に中長期で滞在して研究を遂行することもあります。研究成果の総仕上げである卒業論文は本学科と共同研究先の教員の指導の下、高いレベルにまで引き上げられ、大学院進学後に研究成果を国際学会で発表し、国際的なジャーナル(論文誌)に論文投稿することを目標に進められます。

